



ウクライナ難民の生徒の受入国における社会情緒的幸福を支援する

2022年11月25日

主な結論

- ロシアの対ウクライナ侵攻で、近年最大の強制移住という危機が発生しており、とりわけ子どもと若者の割合が高い。
- ウクライナの子どもと若者の多くは、ウクライナを離れる前から、そして逃避行を経て、ストレスやトラウマになるような経験をしたことが推測できる。また、受入国での生活で様々な問題に直面することがある。こうした経験は、様々な心の問題を引き起こす可能性がある。
- ウクライナからの脱出前後に子どもと若者が経験したことが長期にわたって及ぼす影響の大きさは、彼らが受入国で受けられる心理社会的支援次第で深刻にも軽度にもなりうる。学校は、難民の生徒のニーズに対応し彼らの社会情緒的な学習と幸福を促進する上で重要な役割を担っており、教育と社会全体に彼らを包摂するために不可欠な要素となっている。

背景と主要な問題

ロシアのウクライナに対する大規模な侵略により、ウクライナ人の 3 分の 1 近くが故郷を追われ、近年で最大の強制移住という危機が発生している (UNHCR Regional Bureau for Europe, 2022^[11])。2022 年 11 月 16 日現在、ウクライナからの難民の数は欧州全域で 780 万人以上と記録されている (UNCHR Operational Data Portal, 2022^[2])。とりわけ多いのが子どもと若者である (OECD, 2022^[3])。欧州に移住した子どもと若者の数は、「これほど短期間には前例のない規模」であると認識されている (European Commission, 2022^[4])。

ウクライナの子どもと若者の多くは、暴力や破壊を目撃したり、家族や友人と離れ離れになって喪失感を味わったり、あるいはその他にもウクライナ国内にいる間や逃避行の途中でトラウマとなる出来事を経験したと推測される。(Cerna, 2019^[5]; Smith Jervelund and Krasnik, 2022^[6]; European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。また、難民受入国に入国してからも、差別や生活再建など、移住後の複雑な環境で生活する上で様々な課題に直面している可能性がある (Cerna, 2019^[5])。こうした経験は、悲しみ、絶望、怒り、罪悪感などの感情を引き起こし、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、不安障害、睡眠障害、またはうつ病につながる恐れがある (Gonçalves Júnior et al., 2022^[8])。これまでの研究によると、難民は、受入国の人口と比較して精神衛生状態の有病率が高く、特に PTSD の割合は人口の標準より高いことが報告されている (Cerna, 2019^[5]; Rayes, 2022^[9])。ウクライナの若者が受けたであろうトラウマやストレスの体験は、適切な心理社会的支援がなければ、彼らの成長に永続的な影響を及ぼす可能性がある (Irish National Teachers' Association, 2022^[10])。

侵略が始まると、ウクライナから逃れた子どもと若者の教育の確保は、欧州の難民受入国で「即時に解決すべき優先事項」と認識された (European Commission, 2022^[11])。その後、各国の教育制度では、難民の生徒を学校制度に統合するための様々な施策を実施している (European Education Area, 2022^[12])。教育制度や学校が今後取り組むべき課題は、教育を受けられるようにするだけでなく、ウクライナの生徒をうまく有意義に受入れることである (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。そのためには、彼らが学習を継続できるようにするだけでなく、彼らの多様な社会情緒的ニーズに効果的に対応する必要がある (European Commission, 2022^[4])。社会的欲求には、他者とコミュニケーションをとれること、仲間や家族、文化やコミュニティのメンバーとのつながり、帰属意識を持つことなどが含まれる。さらに、難民の生徒は、母国と受入国の文化の間を行き来しながら、しっかりと個人のアイデンティティを確立する必要がある。ウクライナ難民の情緒的欲求に対応するには、学校での安心感を確立することと、喪失感、トラウマ、別離、悲しみに耐え、処理するための支援が必要である (Cerna, 2019^[5])。

学校は、難民の生徒が生活を安定させ、安全で守られていると感じ、仲間とつながり、教育を継続できる空間となりうる (Cerna, 2019^[5]; European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。また、学校は、生徒が自分の感情を処理し、新しい文化に適応するための課題を解決するのに不可欠な社会情緒的学習を提供する場 (コラム 1 で概説) としても機能し (McBrien, 2022^[13])、さらに心理社会的支援サービスを受けられる場所としても利用できる。(European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。本稿では、ウクライナ難民の子どもと若者の社会情緒的幸福 (social and emotional well-being) を支援するために教育制度が考慮すべき主要な政策について考察し、続いて受入国によってこれまでに実施されたいくつかの対策について議論している。

コラム 1. 社会情緒的学習

社会情緒的学習は、生徒の教育の重要な側面として、教育制度全体で注目が集まっている。社会情緒的学習は、生徒が自分の感情を処理し、周囲の状況を理解し、他者と協力し、不確実性が増す世の中の変化に適応するためのスキル、態度、行動を身につけるのに有益である (Chernyshenko, Kankarás

and Drasgow, 2018^[14]; McBrien, 2022^[13])。生徒は、教師と保育者の指導を手本にして、また創造的な表現活動や仲間との交流の機会を通じて、自分の考えや価値観に気づき、それがどのように自分の行動を形成しているかを知り、建設的な方法でそれを管理する方法を学ぶことができる。また、社会情緒的学習により、生徒は多様な文化を持つ人々を含む他者の感情や行動を考慮し理解する方法を学び、他者と協調して作業し健全な関係を築くために必要な社会的スキルを身につけることができる (McBrien, 2022^[13])。

社会情緒的学習は、生徒が自分の能力に自信を持てるという意味で (Brackett et al., 2019^[15])、学業を促進させ、教育の成果、雇用の成果、そして人生全体の満足度に寄与することが研究で示されている (OECD, 2021^[16]; OECD, 2015^[17])。社会情緒的学習は、難民や移民の生徒が逃避行動の間に、また受入国に到着した後に起こるであろうストレスやトラウマとなる出来事の結果として経験する感情や課題を処理し克服するのに役立つ (James, Iyer and Webb, 2019^[18]; McBrien, 2022^[13])。また、不確実性に対処し、新しい文化と環境に適応するためのスキルを身につける上でも、重要な役割を果たす (McBrien, 2022^[13])。

出典： (McBrien, 2022^[13])。

教育制度にはどのような影響があるのか

難民は均質な集団ではなく、ウクライナから新たにやってきた生徒の社会情緒的ニーズは、年齢、性別、家庭環境、移住前後の経験など、様々な要因によって形成される (Cerna, 2019^[5]; Smith Jervelund and Krasnik, 2022^[6])。したがって、移民先への到着後にこうした生徒それぞれの社会情緒的ニーズを評価して、学校が適切な支援形態を決められるようなプロセスを整備することが重要である。教育制度は、この点で、(規制や公式勧告の形で) 政策を採用したりツールや指針を開発したりすることで、学校を支援することができる。これは、すでに多くの国々で難民の生徒の移民前の学力や語学力を評価する際に行われていることである (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。例えば、オーストリア、フランス、ギリシャ、アイスランド、スウェーデン、スペインでは、新入生の学力と語学力の初期評価が義務付けられている。スロベニアでは、後期中等教育の新入生に対して語学力を評価するための入学面接が義務付けられており、エストニアでは、同様の面接が学習ニーズの決定に関して教育当局が提供するガイダンスの一部として推奨されている (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。しかし、精神面の問題について校長や教師が幅広い訓練を受けていない場合もあり、ウクライナ難民の生徒の社会情緒的ニーズを把握するためには、学校内のカウンセラーや外部の心理社会的支援チームからの情報提供が必要となる場合があることに留意する必要がある。

教師は、学級環境を形成する主体として、ウクライナ難民の生徒を率先して受け入れ、彼らの社会情緒的学習と幸福を促進する上で極めて重要な役割を担っている (Pastoor, 2019^[19])。そのためには、教師が必要な知識と能力を身につけられる質の高い専門的学習を継続して受けられるようにしなければならない。その中には、生徒の多様な文化的背景を理解しそれに対する感受性を持つこと、様々な語学力に対応するために指導を多様化させられる能力、トラウマやストレスの兆候に気づき必要に応じて適切な形の追加支援を生徒に指示できるようにすることなどが含まれる (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7]; UNHCR, 2021^[20])。また、教師は自分自身の態度や先入観を批判的に振り返り、差別などの問題に対処し、学級における生徒同士の礼節ある関係を促進する能力も必要である (McBrien, 2022^[13])。さらに、教師は、自分自身の社会情緒的スキルを向上させ、自分の考えや感情、人間関係が自身の教育指導にどのように影響しているかを考えるための訓練と時間の双方を必要としている (European Commission, 2022^[4]; Green and García-Millán, 2021^[21])。

OECD の調査によると、一般的にこれらの分野の教員研修が必要であるが (Brussino, 2021^[22])、難民の生徒の幸福を支援できる教員を育成する専門的学習コースの例は、いくつかの OECD 諸国の教育制度に見られる。例えば、INSETT は、欧州が資金提供する RefugeesWellSchool プロジェクトの一環として、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドで実施された複数のモジュールで構成されるコースで、難民

や移民の生徒の精神衛生と心理社会的幸福を促進し、良好な人間関係と学校への帰属意識を促すという点で、教師の能力と自己効力感を強化することを目的としている (RefugeesWellSchool, 2022^[23])。このコースは 12 週間にわたって行われ、慢性的なストレスと回復力、安心感の向上、トラウマ、自己規制とその他の対処法、前向きで協力的な人間関係の構築といったテーマが扱われる (Pastoor, 2019^[19])。英国では、国際救済委員会 (International Rescue Committee) の「ヒーリング・クラスルーム (Healing Classrooms)」プログラムが、一連のオンラインによる訓練セッションやワークショップを提供している。このプログラムでは、教師が安全で協力的な学習環境を提供する方法に焦点を当てるとともに、トラウマに配慮した授業方法、社会情緒的学習、マインドフルネスといったテーマに関する実践的なアドバイスやリソースを提供している (International Rescue Committee, 2022^[24])。訓練コースやワークショップに加え、生徒の社会情緒的幸福を促進するために教師を指導、支援する資源については、様々な国および国際レベルで事例が見受けられる。例えば、Inter-agency Network for Education in Emergencies が発行した「心理社会的支援に関するガイダンス (Guidance Note on Psychosocial Support)」は、教師に対して、危機的状況において心理社会的支援を学習に取り入れる方法について、事例に基づいた実践的なヒントと戦略を提供している (McNatt et al., 2018^[25])。

学級外では、スポーツ、文化、その他の課外活動などの正規以外の学習が、社会的交流、文化交流、受入国の言語習得の機会となるため、ウクライナ難民の生徒の幸福を支える鍵となる (Cerna, 2019^[5]; European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。スポーツには、「難民の経験または人種差別の影響によるトラウマから回復した若者に目的意識と進路を与え」、共同体内で良好な人間関係を促進する力があると認められている (Cerna, 2019^[5]; Dykes and Oliff, 2007^[26]; McBrien, 2022^[13])。創造的表現プログラム (芸術、音楽、演劇などを通して社会情緒的スキルを身につけることを目指す) も、難民の生徒の心的外傷後ストレス障害、不安、うつ症状を軽減し、社会情緒的学習を支援することができる (Global Education Monitoring Report, 2019^[27])。例えば、カナダのモントリオールで移民や難民の小学生を対象に行われた 12 週間のクリエイティブアート・ワークショップ・プログラムは、自己肯定感を高め精神衛生上の症状を軽減することにつながった (Global Education Monitoring Report, 2019^[27])。同様に、ベルギーで実施された数週間の絵本読み聞かせと絵本製作のプログラムは、学級の人間関係を改善し、「心的外傷後ストレスのレベルが高い」難民や移民の子どもたちの症状を著しく軽減させることがわかった (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。また、セーブ・ザ・チルドレンの「アートによる癒しと教育 (Healing and Education Through the Arts, HEART)」という社会情緒的学習プログラムも良好な影響を及ぼしている。HEART は、絵画、音楽、演劇などの表現芸術とグループ対話を通じて、ストレスの軽減、暮らし良さ、学習を支援して、子どもと若者が協力的な学級環境で自分のアイデア、感情、経験を処理し、伝達できるようにするものである (Kaimal, Hommel and Pisani, 2022^[28])。このプログラムは、これまでにウクライナを含む 30 カ国以上の学校で実施されており、2023 年初頭にはポーランドで、ウクライナ難民の子どもと若者への支援として試験的に実施されることになっている。

また、マンツーマンの指導やバディプログラムも、社会的なつながりを通して難民の生徒の帰属意識を高めるのに有効である。例えば、ドイツで実施された難民の生徒と難民ではない学生をペアにしたマンツーマンの指導は、良好な人間関係の構築を促し、難民の生徒の新しい環境への適応と統合を促進するとともに、難民の生徒が新たな社会的つながりを形成できるようにし、自信を強められることが分かった (Koehler, Palaiologou and Brussino, 2022^[29]; Sauerborn, 2017^[30]; Schulz, 2018^[31])。

ウクライナ難民の子どもと若者は、トラウマやストレスを抱えているため、学級や課外学習の枠を超えて、専門的な心理社会的支援を必要とする場合がある。学校は、生徒が訓練を受けた専門家 (心理学者、専門教師、校医、言語療法士を含む) による専門サービスを受けられる場所として機能することができる (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。これは、難民が様々な理由から一般の医療制度を通じてそのようなサービスを受けることに抵抗があったり、難しかったりする可能性があるため特に重要である (Siarova and van der Graaf, 2022^[32]; Sullivan and Simonson, 2016^[33])。

多くの OECD 諸国の教育制度では、生徒を全般的に支援するために校内カウンセリングが行われており、中には難民の生徒のニーズに的を絞っている事例もある。例えばトルコでは、シリア難民の生徒を教育制度に統合するための欧州連合とトルコ教育省による共同プロジェクトの一環として、トラウマを経験したシリア難民の子どもたちを支援するために、多くの公立学校で学校指導とカウンセリングサービスが利用できるようにした (Cerna, 2019^[5]; Delegation of the European Union to Turkey, 2017^[34])。オース

トラリアでは、ニューサウスウェールズ州教育省の難民生徒カウンセリング支援チームが、難民の生徒とその家族を支援するために、心理学の専門家とサービスを学校に提供している。サービスには、アドバイスや相談、一般的なスクールカウンセリングサービスの追加支援、より複雑な事例的を絞ったカウンセリング、専門的な学習、難民の生徒を他の支援体制につなげるための援助などが含まれる (NSW Department of Education, n.d.^[35])。

学校は、校内でのサービス提供に加えて、外部プロバイダーが提供する難民の生徒向け支援サービスの利用を、紹介や確かなコミュニケーションチャネルを通じて促進するという点で、重要な役割を果たすことができる (Baak et al., 2019^[36]; Podar et al., 2022^[37])。例えば、スウェーデンでは、「早期かつ協調的な介入(*Tidiga Och Samordnade Insatser*)」という国家教育委員会(National Board of Education)と国家保健委員会(National Board of Health)の共同イニシアチブで、学校、医療、社会サービスの間の連携を促進、円滑化して子どもと若者が必要な支援を受けられるようにしている。この取り組みの一環として、教職員と医療福祉関係者で構成される専門家チームが、様々な連携方法を模索している (Skolverket, 2022^[38])。また、スウェーデン国立教育庁は、生徒のニーズを満たすために外部関係者との協力について学校運営部門と学校内保健サービスのためのガイダンスを作成した (Skolverket, 2022^[39])。

ウクライナ難民の生徒の今後はどうなるのか

欧州の受入国の大半は、ウクライナからの生徒を含め、学校が新規移住者の生徒の知識、語学力、学習ニーズを評価する際の指針となる規則を設けたり、勧告を出したりしている (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。さらに、学校が生徒の社会情緒的ニーズを把握し、求められている心理社会的支援を決定するためのトップレベルのガイダンスを作成した国も少数ながらあり、その中には特にウクライナから逃れた子どもと若者のニーズに焦点を当てたものもある (Ibid.)。例えば、デンマークの教育省が発表したガイダンスでは、学校に対して、新規移住者の生徒の学力とニーズを特定するために（そして、その能力開発を継続的にフォローするために）総合的アプローチをとるよう助言している。また、語学力や学校での学習歴に加え、各生徒の出自、これまでの人生経験、興味、期待などを知るための最初のスクリーニング面接を推奨している (Undervisningsministeriet, n.d.^[40])。同様に、エストニアでは、教育・青年省が、ウクライナ人生徒とその家族または保護者との最初の面接の一環として、学校が取り組むべき事項の一覧を定めており、その中には精神衛生や生徒の対処法も含まれている (Haridusja Noorteamet, 2022^[41])。スペインのバレンシア自治州の教育・文化・スポーツ省は、ウクライナからの生徒の受け入れに関するガイダンスの中で、避難民や新たに到着した生徒のための公式の受け入れ要綱を学校に提示している。その要綱では、学校の校長を含む指導部は個々の生徒とその保護者と面談を行い、その生徒が置かれている状況、健康状態、家族、学歴についての情報を入手すべきと定めている (Generalitat Valenciana Conselleria d'Educació Cultura i Esport, 2022^[42]; Generalitat Valenciana Conselleria d'Educació Cultura i Esport, 2018^[43])。

ウクライナ難民の生徒の社会情緒的ニーズに対応するための専用の教師養成コースやプログラムは、いくつかの国々の教育制度で導入されている。 (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。スロベニアでは、国立教育研究所が教師向けに、トラウマを経験した可能性のあるウクライナ人生徒を支援し、（学校や社会への）受け入れを促進する戦略に関するセミナーを開催しており、そこには心的外傷の専門家やその他の精神医療の専門家も参加した (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])。また、国立教育研究所は、オンラインによる教員研修ビデオのパッケージを提供しており、すべての研修ビデオに精神衛生と心理的幸福に関する特化した内容が含まれている (Zavod Rs Za Šolstvo, 2022^[44])。フランスでは、学校教育総局と教育・スポーツ・研究一般監察局が、トラウマとそれが生徒に現れる方法について教師の理解を深め、ウクライナから来た生徒の多様な感情的なニーズに対応するための実践的な戦略を提供する、3部構成のオンライン研修コースを開発した (Ministère de l'Éducation Nationale et de la Justice, 2022^[45])。セーブ・ザ・チルドレンは、リトアニア、ポーランド、ルーマニアなどの受入国の教師にも、ウクライナ難民の教師の精神面のニーズに対応する能力を強化するための研修を提供している。こうした能力には、学級内で実施できる戦略と、生徒が訓練を受けた精神衛生の専門家の特別な特別を必要とする場合を見極め、適切なサービス提供者に紹介できるようにするという 2つの側面がある。

教員研修に加え、いくつかの国々の教育制度では、ウクライナ出身の生徒の社会情緒的ニーズに対応するための教員支援ツールや資源も開発されている。例えばアイルランドでは、国立教育心理サービスが開発し教育省が公表した指針で、初等および中等教育の学校の教師向けにウクライナ難民の生徒の回復力と心の健康を促進するための多くの実践的な提言が提供されている。この提言は、災害やその他の心的外傷を伴う出来事の後に心理社会的支援を行うための一連の実証ベースの原則に則っている (Department of Education, National Educational Psychological Service, 2022^[46])。イタリア教育省が発表した学校と教師がウクライナ人生徒の受け入れを促進するためのガイダンスノートでは、生徒が経験したであろうトラウマから生じる感情を処理するのを支援する教育的戦略にも特に焦点が当てられている (Ministero dell'Istruzione, 2022^[47])。またスロバキアでは、教育省と国立教育研究所が、ウクライナから逃れてきた子どもたちの受け入れに関するウェビナーや提言、臨床心理士協議会が作成した心理学教材、生徒と戦争について話し合う際の指針を示すポッドキャストへのリンクなどを教師に提供している (UNESCO, 2022^[48])。

また、ウクライナの子どもと若者に社会的交流、文化交流、創造的表現の機会を提供する取り組みが、一部の国々の教育制度で実施されている。チェコでは、教育省が、創作活動やスポーツなどの社会活動を通じてウクライナの子どもと若者の心理的幸福を強化し、学校への移行を支援する「適応グループ」に資金提供を含む支援を行っている。このグループで働く人々は、教育学や心理学の資格を持っている必要はないが、教育省は心理学の専門家との連携を確保することを推奨している (iROZHLAS, 2022^[49]; Ministerstvo školství, mládeže a tělovýchovy, 2022^[50])。アイルランドでは、「クリエイティブ・スクール」プログラムに参加する学校は、芸術協議会（芸術と文化の発展を担う政府機関）に、ウクライナ人やその他の移民の子どもたちがプログラムの活動に参加しやすくなるように、翻訳やその他のサービスのための資金を提供してくれるよう申請することができる。また、芸術協議会は、ウクライナ人生徒がプログラムの活動に完全に参加できるよう、学校と協力するクリエイティブアソシエーツに専門的能力の開発および支援のためのリソースを提供している (Department of Tourism, Culture, Arts, Gaeltacht, Sport and Media, 2022^[51])。また、多くの受入国におけるウクライナ難民の生徒たちは、紛争の影響を受けた子どもと若者の心理社会的幸福の改善を目指すプログラム「チームアップ (TeamUp)」を通じて、心理社会的支援を受けている (War Child Holland, 2022^[52])。セーブ・ザ・チルドレン・オランダ、オランダユニセフ協会、War Child Holland が共同で作成したこのプログラムは、欧州各地の学校や難民保護施設で実施されており、War Child Holland と地元のパートナーによって地元の世話役向けに研修が提供されている (War Child Holland, 2022^[53])。

ウクライナの子どもと若者が経験したであろうストレスやトラウマは、彼らの成長に永続的な影響を与える可能性があるため、専門的な心理社会サービスを利用できるようにすることが極めて重要である。一部の国々の教育制度では、欧州の大多数の受入国の学校で提供することが求められている一般的なカウンセリングや精神的な支援に加えて (European Commission / EACEA / Eurydice, 2022^[7])、ウクライナからの留学生に特化した支援サービスを実施している。例えばスロバキアでは、学校に対して心理社会的支援を行う 62 の専門家チーム（危機介入の経験を持つ心理学者や特殊教育の専門家で構成）が設置されており、各チームを支援するためにウクライナ語を話す専門家が配置されている。また、教育・科学・研究・スポーツ省は、ウクライナ語の電話相談窓口を設置している。さらに、エストニアとオーストリアの教育省は、ウクライナ語のスクールカウンセリングまたは心理カウンセラーによる相談窓口を開設し、ウクライナ人の子どもと若者が母国語で精神的支援を受けられるようにしている (Republic of Estonia Ministry of Education and Research, 2022^[54]; UNESCO, 2022^[55])。

ノルウェー難民協議会の「ベター・ラーニング・プログラム」は、モルドバやポーランドなど、ウクライナ人生徒を多数受け入れている国々で展開されている。このプログラムは、紛争の影響を受けた生徒の社会情緒的幸福を支援することを目指す取り組みの一例で、教師による教室での学習と訓練を受けたカウンセラーとのセッションの双方が行われる。当初、パレスチナで戦争や紛争に巻き込まれた子どもと青少年の学習環境を改善するために 2007 年に開発されたこのプログラムには、BLP 1 と BLP 2 という 2 つの要素がある (Shah, 2017^[56])。BLP1 には、危機心理学や心的外傷後ストレスの研究に基づき、教師が学級で実施するものが含まれ、危機を経験した後に遭遇する様々な反応や感情、対処能力を高めるための戦略やツールについて教えることに重点を置いている。プログラムの一環として、教師には初期研修とフォローアップ研修が行われ、特に学級の状況に応じたセッションの進め方についての詳細な

ガイダンスも提供されている。BLP2 では、特に紛争関連のトラウマと関係のある悪夢や睡眠障害を訴える生徒を、訓練を受けたカウンセラーによる一連の体系的なグループセッションおよび個人セッションを行うことで支援している。BLP1 と BLP2 双方で提供される心理社会的支援は、生徒の心の安定と安心感を確立し、自己効力感と自己調整能力を促進し、人間関係と共同体への帰属意識を構築することを目的としている。また、このプログラムでは、生徒の幸福を支援し、学校社会の回復力を高めるために、教師、カウンセラー、保護者の連携を強化することを目指している (Ibid.)。

政策当局が考慮すべきこと何か

- 難民の生徒の多様なニーズに対応し、彼らの社会情緒的学習と幸福を促進するには、教育面の戦略と学級における介入から、課外学習の機会、治療的支援に至るまで、総合的なアプローチが必要である。
- ウクライナ人難民の生徒のニーズは様々であるため、学校は最適な支援形態を決定するために、最初の評価を慎重に行うことが重要である。教育担当省が開発、普及させた提言やツールで、それを導くことができる。
- 教師が生徒の社会情緒的学習と幸福を促進する上で極めて重要な役割を担っていることを考えると、教師に質の高い専門学習のための支援と機会を継続的に提供する必要がある。これは、彼らがウクライナ難民の生徒を支援するための知識と能力を確実に身につけるために重要なことである。
- ウクライナ難民の生徒の中には、学級や課外学習で提供できる以上の支援を必要とする社会情緒的ニーズを持っている人もいる。教師は、難民の生徒の幸福を育む重要な役割を担っているが、一般的に彼らは精神衛生の専門家ではない。したがって、ウクライナ難民の子どもと若者が、学校でのカウンセリングや共同体で提供されるサービスの紹介などを通じて専門家による心理的支援を受けられるようにすることが非常に重要である。

参照文献

- Baak, M. et al. (2019), "The Role of Schools in Identifying and Referring Refugee Background Young People Who Are Experiencing Mental Health Issues", *Journal of School Health*, Vol. 90/3, pp. 172-181, <https://doi.org/10.1111/josh.12862>. [36]
- Brackett, M. et al. (2019), "RULER: A Theory-Driven, Systemic Approach to Social, Emotional, and Academic Learning", *Educational Psychologist*, Vol. 54/3, pp. 144-161, <https://doi.org/10.1080/00461520.2019.1614447>. [15]
- Brussino, O. (2021), "Building capacity for inclusive teaching: Policies and practices to prepare all teachers for diversity and inclusion", *OECD Education Working Papers*, No. 256, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/57fe6a38-en>. [22]

- Cerna, L. (2019), "Refugee education: Integration models and practices in OECD countries", *OECD Education Working Papers*, No. 203, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/a3251a00-en>. [5]
- Chernyshenko, O., M. Kankaraš and F. Drasgow (2018), *Social and emotional skills for student success and well-being: Conceptual framework for the OECD study on social and emotional skills*. [14]
- Delegation of the European Union to Turkey (2017), *EU and Turkish Ministry of National Education launch €300 million project to improve Syrian children's access to education*, <https://www.avrupa.info.tr/en/pr/eu-and-turkish-ministry-national-education-launch-eu300-million-project-improve-syrian-childrens>. [34]
- Department of Education, National Educational Psychological Service (2022), *Supporting the Wellbeing of Children from Ukraine in your School: Guidance for Primary Schools*. [46]
- Department of Tourism, Culture, Arts, Gaeltacht, Sport and Media (2022), *Government supports young Ukrainians in Ireland through arts and creativity*, <https://www.gov.ie/en/press-release/dbd3f-government-supports-young-ukrainians-in-ireland-through-arts-and-creativity/> (accessed on 2 September 2022). [51]
- Dykes, J. and L. Oliff (2007), *Sport and Recreation as a Tool for Social Inclusion: The Experiences of Refugee and Migrant Young People*, Centre for Multicultural Youth Issues. [26]
- European Commission (2022), *Communication from the Commission to the European Parliament, the European Council, the Council, the European Economic and Social Committee and the Committee of the Regions - Welcoming those fleeing war in Ukraine: Readyng Europe to meet the needs*. [11]
- European Commission (2022), *Supporting the inclusion of displaced children from Ukraine in education: Considerations, key principles and practices for the school year 2022-2023*. [4]
- European Commission / EACEA / Eurydice (2022), *Supporting refugee learners from Ukraine in schools in Europe*, Publications Office of the European Union. [7]
- European Education Area (2022), *Promoting the enrolment of child refugees in education*, <https://education.ec.europa.eu/news/promoting-the-enrolment-of-child-refugees-in-education> (accessed on 29 August 2022). [12]
- Generalitat Valenciana Conselleria d'Educació Cultura i Esport (2022), *Acogida del alumnado procedente de Ucrania*. [42]
- Generalitat Valenciana Conselleria d'Educació Cultura i Esport (2018), *Protocol d'acollida d'alumnat nouvingut, especialment el desplaçat*. [43]
- Global Education Monitoring Report (2019), *Education as healing: addressing the trauma of displacement through social and emotional learning*, UNESCO, <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000367812>. [27]
- Gonçalves Júnior, J. et al. (2022), "The impact of "the war that drags on" in Ukraine for the health of children and adolescents: Old problems in a new conflict?", *Child Abuse & Neglect*, Vol. 128, p. 105602, <https://doi.org/10.1016/j.chiabu.2022.105602>. [8]

- Green, C. and C. García-Millán (2021), *Spotlight: Social & Emotional Learning*, HundrED Research, https://cdn.hundred.org/uploads/report/file/138/HundrED_Spotlight_SEL.pdf (accessed on 3 October 2022). [21]
- Haridus-ja Noorteamet (2022), *Individuaalse tegevusplaani koostamine Ukraina õpilastele*. [41]
- International Rescue Committee (2022), *Healing Classrooms*, <https://www.rescue.org/uk/jirc-uks-healing-classrooms#main-content> (accessed on 30 August 2022). [24]
- Irish National Teachers' Association (2022), *Education and Supports Provision for Displaced Ukrainian Students: INTO Submission to Joint Committee on Education, Further and Higher Education, Research, Innovation and Science*, https://www.into.ie/app/uploads/2022/05/20220506_Oireachtas-submission_Supports-for-Ukrainian-children16.pdf (accessed on 25 August 2022). [10]
- iROZHLAS (2022), *Adaptační skupiny pro malé Ukrajince budou pokračovat. Nově se zapojí děti od 15 do 18 let*, https://www.irozhlas.cz/zpravy-domov/adaptacni-skupina-deti-uprchlici-ukrajinci-valka-na-ukrajine_2208111704_gut. [49]
- James, P., A. Iyer and T. Webb (2019), "The impact of post - migration stressors on refugees' emotional distress and health: A longitudinal analysis", *European Journal of Social Psychology*, Vol. 49/7, pp. 1359-1367, <https://doi.org/10.1002/ejsp.2589>. [18]
- Koehler, C., N. Palaiologou and O. Brussino (2022), *Holistic refugee and newcomer education in Europe*, OECD Publishing, <https://doi.org/10.1787/9ea58c54-en>. [29]
- Maguire, C. and A. Holt (eds.) (2022), *Healing and Education Through the Arts (HEART): Arts Based Psychosocial Support for Preschool Children in Mexico and Malawi*, Routledge Press. [28]
- McBrien, J. (2022), "Social and emotional learning (SEL) of newcomer and refugee students: Beliefs, practices and implications for policies across OECD countries", *OECD Education Working Papers*, No. 266, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/a4a0f635-en>. [13]
- McNatt, Z. et al. (2018), *Guidance Note: Psychosocial Support*. [25]
- Ministère de l'Éducation Nationale et de la Justice (2022), *Accueillir des enfants arrivant d'Ukraine ou d'autres zones de guerre*, <https://eduscol.education.fr/3143/accueillir-des-enfants-arrivant-d-ukraine-ou-d-autres-zones-de-guerre> (accessed on 1 September 2022). [45]
- Ministero dell'Istruzione (2022), *Studenti Profughi Dall'Ucraina : Spunti Per La Riflessione Pedagogica E Didattica Delle Scuole*. [47]
- Ministerstvo školství, mládeže a tělovýchovy (2022), *Jak na organizaci adaptačních skupin*. [50]
- NSW Department of Education (n.d.), *Refugee Student Counselling Support Team*, <https://education.nsw.gov.au/student-wellbeing/counselling-and-psychology-services/school-counselling/refugee-teams>. [35]
- OECD (2022), *Russia's war of aggression against Ukraine generates historic migration flows: More support needed for integration now and possible future return*, <https://www.oecd.org/migration/russia-s-war-of-aggression-against-ukraine-generates-historic-migration-flows.htm> (accessed on 24 October 2022). [3]

- OECD (2021), *Beyond Academic Learning: First Results from the Survey of Social and Emotional Skills*, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/92a11084-en>. [16]
- OECD (2015), *Skills for Social Progress: The Power of Social and Emotional Skills*, OECD Skills Studies, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/9789264226159-en>. [17]
- Pastoor, L. (2019), *In-Service Teacher Training (INSETT) - Providing psychosocial support to young refugees*, Norwegian Centre for Violence and Traumatic Stress Studies, https://refugeeswellschool.org/activeapp/wp-content/uploads/2019/02/RWS-INSETT-Manual_Working-Paper_Lutine-Pastoor_20.02.19-revised-logo_18.03.22.pdf. [19]
- Podar, M. et al. (2022), “How schools in Germany shape and impact the lives of adolescent refugees in terms of mental health and social mobility”, *SSM - Population Health*, Vol. 19, p. 101169, <https://doi.org/10.1016/j.ssmph.2022.101169>. [37]
- Rayes, D. (2022), *As Ukrainian refugees arrive, the EU's public health crisis grows*, <https://newlinesinstitute.org/ukraine/as-ukrainian-refugees-arrive-the-eus-public-health-crisis-grows/> (accessed on 26 August 2022). [9]
- RefugeesWellSchool (2022), *In-service teacher training*, <https://refugeeswellschool.org/intervention/intervention-test/>. [23]
- Republic of Estonia Ministry of Education and Research (2022), *A Ukrainian-language school psychologists' helpline was opened in Estonia*, <https://www.hm.ee/en/news/ukrainian-language-school-psychologists-helpline-was-opened-estonia> (accessed on 1 September 2022). [54]
- Sauerborn, K. (2017), *Evaluation des Patenschaftsprogramms der Stiftung Bildung im Rahmen des Bundesprogramms „Menschen stärken Menschen“ des BMFSFJ*, https://www.stiftungbildung.org/wp-content/uploads/Evaluationsbericht_zum_Patenschaftsprogramm_2016.pdf (accessed on 22 June 2021). [30]
- Schulz, C. (2018), *Evaluation des Patenschaftsprogramms 2017 der Stiftung Bildung im Rahmen des Bundesprogramms „Menschen stärken Menschen“ des BMFSFJ*. [31]
- Shah, D. (2017), *Improving Children's Wellbeing: An evaluation of NRC's Better Learning Programme in Palestine*, Norwegian Refugee Council, <https://www.nrc.no/globalassets/pdf/evaluations/nrc-blp-palestine-full-report.pdf>. [56]
- Siarova, H. and L. van der Graaf (2022), “Multi-stakeholder approach for better integration of refugee students: Stakeholder engagement in the practice-research-policy transfer in refugee education policy”, *OECD Education Working Papers*, No. 265, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/82b390fb-en>. [32]
- Skolverket (2022), *Early and coordinated interventions for children and young people*. [38]
- Skolverket (2022), *External cooperation to meet the needs of children and students early on*, <https://www.skolverket.se/skolutveckling/inspiration-och-stod-i-arbetet/stod-i-arbetet/extern-samverkan-for-att-tidigt-mota-barns-och-elevs-behov>. [39]
- Smith Jervelund, S. and A. Krasnik (2022), *How do we ensure the best possible health and welfare for Ukrainian refugee children and young people seeking a safe place in the Nordic countries?*. [6]

- Sullivan, A. and G. Simonson (2016), “A Systematic Review of School-Based Social-Emotional Interventions for Refugee and War-Traumatized Youth”, *Review of Educational Research*, Vol. 86/2, pp. 503-530, <https://doi.org/10.3102/0034654315609419>. [33]
- UNCHR Operational Data Portal (2022), *Ukraine Refugee Situation*, <https://data.unhcr.org/en/situations/ukraine> (accessed on 3 October 2022). [2]
- Undervisningsministeriet (n.d.), *Information til skoleledelse og kommunal forvaltning | Hele vejen rundt om elevens sprog og ressourcer*, Undervisningsministeriet [Ministry of Education], <https://emu.dk/sites/default/files/2019-01/GSK.%20Tosprogede.%20Hele%20vejen%20rundt%20om%20elevens%20sprog%20og%20ressourcer.pdf>. [40]
- UNESCO (2022), *Mapping host countries' education responses to the influx of Ukrainian students*, <https://www.unesco.org/en/articles/mapping-host-countries-education-responses-influx-ukrainian-students> (accessed on 21 June 2022). [55]
- UNESCO (2022), *Slovakia's education response to the influx of Ukrainian students*, <https://www.unesco.org/en/articles/slovakias-education-response-influx-ukrainian-students> (accessed on 1 September 2022). [48]
- UNHCR (2021), *Teaching About Refugees 2021 - Stress and Trauma Guidebook*, UNHCR, <https://www.unhcr.org/en-in/publications/brochures/6177f8724/unhcr-teaching-refugees-2021-stress-trauma-guidebook.html> (accessed on 30 August 2022). [20]
- UNHCR Regional Bureau for Europe (2022), *Ukraine Situation Flash Update No. 24*, UNHCR, <https://data.unhcr.org/en/documents/details/94640> (accessed on 24 October 2022). [1]
- War Child Holland (2022), *TeamUp*. [53]
- War Child Holland (2022), *TeamUp Ukraine Emergency Response*. [52]
- Zavod Rs Za Šolstvo (2022), *Povabilo k uporabi seminarских video paketov na temo Varno in spodbudno učno okolje*, <https://www.zrss.si/nekategorizirano/povabilo-k-uporabi-seminarskih-video-paketov-na-temo-varno-in-spodbudno-ucno-okolje/> (accessed on 1 September 2022). [44]

関連資料

- Cerna, L. (2019), “Refugee education: Integration models and practices in OECD countries”, *OECD Education Working Papers*, No. 203, OECD Publishing, Paris, <https://dx.doi.org/10.1787/a3251a00-en>.
- McBrien, J. (2022), “Social and emotional learning (SEL) of newcomer and refugee students: Beliefs, practices and implications for policies across OECD countries”, *OECD Education Working Papers*, No. 266, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/a4a0f635-en>.
- OECD (2022), “The Ukrainian Refugee Crisis: Support for teachers in host countries”, OECD Policy Responses on the Impacts of the War in *Ukraine*, OECD, <https://www.oecd.org/ukraine-hub/policy-responses/the-ukrainian-refugee-crisis-546ed0a7/>

OECD (2022), “Supporting Refugee Students from Ukraine in Host Countries”. *OECD Policy Responses on the Impacts of the War in Ukraine*, OECD, <https://www.oecd.org/ukraine-hub/policy-responses/supporting-refugee-students-from-ukraine-in-host-countries-b02bcaa7/>

担当

Lucie CERNA (✉ lucie.cerna@oecd.org)

Sarah JAMESON (✉ sarah.jameson@oecd.org)

本稿は OECD の事務総長の責任のもとで発行されている。本書で表明されている意見や主張は必ずしも OECD またはその加盟国政府の公式見解を反映するものではない。

本文書及び掲載のいかなる地図も、領土に関する地位或いは主権、定められた国境及び境界、またいかなる領土、都市、地域の名称を害するものではない。

本書の利用については、電子版又は印刷版のいずれの場合でも <http://www.oecd.org/termsandconditions> に記載された諸条件が適用される。